

# 詳細分析：ニッスイ 新中期経営計画「GOOD FOODS Recipe2」（2025-2027 年度）－「Good Foods 2030」への道筋を描く

Gemini Deep Research

## I. エグゼクティブサマリー

株式会社ニッスイ（以下、ニッスイ）が新たに発表した 2025 年度から 2027 年度を対象とする中期経営計画「GOOD FOODS Recipe2」は、長期ビジョン「Good Foods 2030」達成に向けた重要なステップと位置づけられる。本計画では、2028 年 3 月期に連結営業利益 410 億円を目指すという意欲的な財務目標が設定されており<sup>1</sup>、これは前中期経営計画「Good Foods Recipe1」からの着実な成長と収益性向上へのコミットメントを示すものである。戦略的には、中核事業である水産・食品事業の強化に加え、グローバル展開の加速、ファインケミカル事業の成長、そしてサステナビリティ経営の深化が柱となる見込みである。前計画からの継続性を保ちつつも、市場環境の変化や達成状況を踏まえた戦略の重点化や新たな取り組みが盛り込まれていると考えられる。市場からは、計画発表後に株価が上昇するなど、一定の評価を得ている様子がうかがえるが<sup>1</sup>、目標達成には着実な戦略実行が不可欠となる。本レポートでは、「GOOD FOODS Recipe2」の内容を深掘りし、その戦略、目標、課題、そして長期ビジョン達成への影響について包括的に分析する。

## II. はじめに：ニッスイの戦略的軌跡と「GOOD FOODS Recipe2」の発表

ニッスイは 1911 年の創業以来<sup>3</sup>、漁業から水産加工、食品、ファインケミカルへと事業領域を拡大し、日本の食産業をリードしてきた企業の一つである<sup>3</sup>。同社は、2030 年のありたい姿として「人にも地球にもやさしい食を世界にお届けするリーディングカンパニー」を掲げる長期ビジョン「Good Foods 2030」を策定しており<sup>3</sup>、中期経営計画は、この長期ビジョンを実現するための段階的なロードマップとして機能している。

2022 年度から 2024 年度を対象とした前中期経営計画「Good Foods Recipe1」は、この長期ビジョン達成に向けた最初のステップであり、「もうワンランク上へ行くための変革」と位置づけられ、2030 年から逆算するバックキャスティングの手法で策定された<sup>7</sup>。この期間中、ニッスイは重要なコーポレートブランディングの刷新を実行した。具体的には、2023 年 1 月 1 日付（予定）で商号を従来の「日本水産株式会社」から、長年親しまれてきた呼称である「株式会社ニッスイ」へと変更した<sup>3</sup>。同時に、「人々

により良い食をお届けしたい」という志を核とする新たなミッション（ブランドプロミス）を定め、「まだ見ぬ、食の力を。」というブランドスローガンと新しいブランドシンボルを導入した<sup>3</sup>。この一連のリブランディングは、単なる表面的な変更ではなく、同社が伝統的な「水産」の枠を超えて、より広範な「食」の可能性を追求し、健やかな生活とサステナブルな未来に貢献していくという強い意志を示す戦略的なシグナルであった。水産という特定の事業領域を示す旧社名からの変更は<sup>3</sup>、加工食品、ファインケミカル、そしてグローバル市場といった、水産物以外の成長領域への注力を内外に示すものであり、続く新中期経営計画における戦略的優先順位が、より多角的で付加価値の高い方向へとシフトする可能性を示唆していた。

こうした背景のもと、2025年4月8日、ニッスイは新たな中期経営計画「GOOD FOODS Recipe2」を発表した<sup>10</sup>。翌4月9日には、計画の詳細に関する説明会が開催され、説明資料や動画配信を通じて内容が公開された<sup>12</sup>。本計画は、「Good Foods Recipe1」で築かれた基盤と、それ以前のMVIP (Midterm Value Innovation Plan) シリーズを含む過去の戦略から得られた学びの上に構築されており<sup>4</sup>、「Good Foods 2030」の実現に向けた次なる3カ年の具体的な道筋を示すものとなる。

### III. 「GOOD FOODS Recipe2」（2025-2027年度）の深掘り：戦略、目標、投資

(注記：本セクションの内容は、主に公開されている計画発表情報<sup>12</sup>および関連情報に基づいており、特にRecipe2の詳細な戦略・施策については、Recipe1の方向性<sup>6</sup>や過去の計画<sup>6</sup>、一般的な企業戦略の傾向からの推測を含む。)

#### A. 財務計画：目標数値と指標

「GOOD FOODS Recipe2」では、計画最終年度（2027年度、すなわち2028年3月期）に向けた具体的な定量目標が設定されている。主要な目標には以下が含まれると考えられる。

- 連結売上高: Recipe1からの着実な成長を目指す目標値。
- 連結営業利益: 市場報道によれば、2028年3月期に410億円を目指すという意欲的な目標が設定されている<sup>1</sup>。これは、長期ビジョンで示唆される将来目標（売上高1兆円、営業利益500億円<sup>6</sup>）達成に向けた重要な中間目標となる。
- 収益性指標: 営業利益率など、収益性の向上を目指す指標。
- 資本効率性指標: ROE（自己資本利益率）やROIC（投下資本利益率）。Recipe1でROICを重視し、事業ポートフォリオ最適化を図る方針が示されており<sup>6</sup>、Recipe2でもこの方針が継続・強化される可能性が高い。

- 株主還元方針:** Recipe1 では配当性向 30%以上を目指す方針が示された<sup>7</sup>。Recipe2 でも安定的な株主還元を継続、あるいは強化する方針が示されることが予想される。
- 海外売上高比率:** Recipe1 では 2024 年度に 38%程度（2021 年度実績 34%から向上）を目指していた<sup>7</sup>。長期ビジョンでは 50%が示唆されており<sup>6</sup>、Recipe2 では更なる比率向上を目指す目標が設定されるだろう。

### 主要財務目標の比較

指標	期間	Good Foods Recipe1 (計画)	Good Foods Recipe1 (実績/見込)	GOOD FOODS Recipe2 (計画)	長期目標(参考)
連結売上高	FY2022-2024	(具体的な数値は要確認)	(要確認)	(要確認)	1兆円
連結営業利益	FY2022-2024	(具体的な数値は要確認)	(要確認)	410 億円 (FY2027) <sup>1</sup>	500 億円
ROE/ROIC	FY2022-2024	ROIC 重視 <sup>7</sup>	(要確認)	(要確認、 ROIC 重視継続か)	(要確認)
海外売上高比率	FY2022-2024	38%程度 (FY2024) <sup>7</sup>	(要確認)	(要確認、更なる向上目標か)	50%
配当性向	FY2022-2024	30%以上 <sup>7</sup>	(要確認)	(要確認、継続・強化か)	(要確認)
投資総額(設備+M&A)	FY2022-2024	1,200 億円 <sup>7</sup>	(要確認)	(要確認)	(該当なし)

(注: Recipe1 および Recipe2 の計画・実績/見込の具体的な数値は、公式発表資料<sup>12</sup>等で確認が必要)

この比較表は、Recipe2 の目標設定が Recipe1 と比較してどの程度の野心を持っているか、どの領域に重点を置いているかの変化（例：売上成長と利益率改善のバランス）、過去の実績を踏まえた目標の実現可能性、そして長期目標への進捗度合いを評価する上で極めて有用である。

## B. 戦略の柱 : Recipe2 の中核的推進力

Recipe2 の戦略は、公式発表資料<sup>12</sup> および Recipe1 からの継続性<sup>6</sup> を踏まえると、以下の柱を中心に構成されていると考えられる。

- **中核事業（水産・食品）の強化:** 伝統的な事業領域における収益性とレジリエンスの向上。バリューチェーンの最適化<sup>4</sup>、水産資源へのアクセス力強化<sup>4</sup>、国内加工生産機能の強化・再編（過去の中計でも言及<sup>13</sup>）、養殖事業の強化<sup>6</sup>などが含まれる可能性がある。
- **成長領域の推進:** 拡大が期待される特定セグメントへの注力。
  - **グローバル展開:** 欧米市場での成長継続<sup>6</sup> に加え、アジアでの事業基盤確立<sup>7</sup> など、地域ごとの市場浸透戦略や製品カテゴリー戦略の具体化。
  - **食品事業の付加価値向上:** 健康志向製品<sup>7</sup>、ライフスタイル変化への対応<sup>13</sup>、新規カテゴリーの創出<sup>6</sup>など、加工食品分野での高付加価値化への取り組み強化。
  - **ファインケミカル事業:** EPA/DHA など高機能素材の用途拡大やグローバル供給体制の強化<sup>6</sup>。
- **サステナビリティ経営の統合深化:** Recipe1 で示されたコミットメント<sup>7</sup> をさらに推し進める。温室効果ガス排出削減、プラスチック削減、持続可能な水産資源利用、責任ある調達、人的資本（多様性、健康経営<sup>16</sup>）などに関する具体的な目標とイニシアチブ。これらは企業ミッション<sup>3</sup> とも密接に連携する。
- **オペレーションエクセレンスと効率化:** 生産性向上、デジタルトランスフォーメーション（DX）の活用（他社の例<sup>17</sup>）、サプライチェーン最適化、コスト管理強化策。
- **経営基盤の強化:** コーポレートガバナンスの継続強化<sup>6</sup>、人財戦略（多様性の推進、スキル開発<sup>7</sup>）、ROIC 経営に基づく事業ポートフォリオマネジメントの徹底<sup>6</sup>。

## C. 主要施策と資源配分

各戦略の柱を推進するための具体的なアクションプランと資源配分は以下のようになることが想定される。

- **設備投資（CAPEX）:** Recipe2 期間中の総投資額（Recipe1 の計画は 1,200 億円の

うち設備投資 950 億円<sup>7)</sup> と、事業セグメント別、地域別、戦略テーマ別（新工場建設、自動化、研究開発施設など）の配分計画。

- **M&A（合併・買収）** : M&A に割り当てられる予算枠（Recipe1 では 250 億円枠<sup>7)</sup> と、その戦略的意図（技術獲得、市場アクセス、新規カテゴリー参入など）。
- **研究開発（R&D）** : 新製品開発、養殖技術、ファインケミカル応用など、重点研究開発分野と投資レベル。
- **人的資本投資**: タレント獲得、育成プログラム、多様性推進施策<sup>7)</sup>、健康経営への投資<sup>16)</sup> など。
- **サステナビリティ投資**: 環境目標達成や社会貢献活動に関連する具体的なプロジェクトへの投資。

Recipe2 における資本配分（CAPEX、M&A 予算など）の具体的な内訳は、ニッスイが将来の成長と収益性の源泉をどこに見出しているかを示す重要な指標となる。Recipe1 の計画<sup>7)</sup> や過去の実績と比較して、資源配分に顕著な変化が見られれば、それは特定の成長戦略に対する経営陣の確信度の高まりや、戦略的優先順位の転換を具体的に示すものとなるだろう。例えば、海外食品事業向けの M&A 予算が大幅に増額されていれば、その分野での成長加速への強いコミットメントがうかがえる。戦略的な物語が、実際の資金投入によって裏付けられているかどうかが注目される。

## IV. 比較分析：過去の戦略からの進化

### A. 戦略的シフトと継続性：Recipe2 vs. Recipe1 および MVIP 時代

「GOOD FOODS Recipe2」の戦略と財務目標を、前計画「Good Foods Recipe1」<sup>3)</sup> と比較すると、継続性と変化の両面が見られるはずである。

- **継続性**: サステナビリティへの注力<sup>7)</sup>、グローバル展開の推進<sup>6)</sup>、ROIC を活用した経営管理<sup>6)</sup>、そして長期ビジョン「Good Foods 2030」への連動性<sup>3)</sup> は、Recipe1 から引き継がれる中核的な要素であろう。企業ミッション<sup>3)</sup> も不变であると考えられる。
- **変化**: 特定の地域や事業分野への重点化度合い（例：ファインケミカルや付加価値食品へのより積極的な投資）、財務目標の野心度（一部でより高く、一部で現実的に調整されている可能性）、M&A や大型投資に対するアプローチの変化などが、Recipe2 における新たな方向性を示す可能性がある。

さらに、過去の「MVIP」シリーズ<sup>4)</sup> と比較することで、ニッスイの戦略の長期的な進化が見て取れる。

- **MVIP 2014 (2012 - 2014 年度)**: 経営資源を「Global Links」機能強化に集中させ、

ブランドイメージ向上や財務体質改善を図ったが、医薬品事業での環境変化等により利益目標は未達<sup>4</sup>。回復と次期飛躍への備えの時期であった。

- **MVIP 2017 (2015-2017 年度):** 目標達成、増配実現、CSR（企業の社会的責任）への取り組み本格化<sup>13</sup>。成長軌道への回帰とサステナビリティ基盤構築の時期。
- **MVIP+ 2020 (2018 - 2020 年度) および 2021 年度:** コロナ禍の影響を受けつつも、欧米事業の成長、南米養殖事業の安定化・収益化、ガバナンス強化、サステナビリティ活動促進で成果<sup>6</sup>。一方で、医薬品原料の海外販売拡大や国内コスト構造に課題を残した<sup>6</sup>。

この歴史的変遷は、ニッスイが経営安定化から成長フェーズへと移行し、グローバル化を加速させ、サステナビリティやガバナンスを経営の中核に据えるようになってきたことを示している。これらのトレンドは、「Good Foods Recipe」シリーズにおいて、さらに加速・深化していると考えられる。

## B. 「Good Foods Recipe1」（2022-2024 年度）の成果と課題の反映

先行する Recipe1 の成果と課題は、Recipe2 の計画策定に大きな影響を与えているはずである。

- **達成事項:** 会社が挙げる成功事例として、欧州・北米事業の成長と収益化、南米養殖事業の安定化と収益化、ガバナンス強化、サステナビリティ活動促進などが挙げられている<sup>6</sup>。Recipe1 で設定された財務目標（売上、利益、ROIC、海外売上比率<sup>7</sup>など）の達成状況が注目される。
- **未達・課題:** Recipe1 期間中に目標達成が困難だった領域や、MVIP+2020 期から引き継がれた課題（医薬品原料の海外販売、国内コスト構造<sup>6</sup>など）への対応状況。
- **学びと反映:** Recipe1 の経験と結果が、Recipe2 の戦略設計や優先順位付けにどのように反映されているか。例えば、Recipe1 期間中に利益率が圧迫されたのであれば、Recipe2 ではコスト管理や高付加価値化への取り組みが強化されている可能性がある。特に、MVIP+2020/2021 期に認識された課題（医薬品原料の海外販売、国内コスト構造<sup>6</sup>）は、Recipe1 期間中も継続的な取り組み対象であった可能性が高く、Recipe2 では、Recipe1 での進捗を踏まえた上で、これらの課題に対する新たな、あるいはより強化された解決策が盛り込まれていると考えられる。Recipe2 における関連分野の具体的施策を分析することで、ニッスイの課題解決に向けた最新のアプローチが明らかになるだろう。

## V. 市場環境と計画の妥当性

### A. 事業環境：トレンド、課題、機会

Recipe2 の実行にあたり、ニッスイを取り巻く外部環境は重要な要素となる。

- **水産事業:** 世界的な漁獲量の動向、養殖生産の重要性増大（その比率の高まりは過去の中計でも指摘<sup>14)</sup>）、水産資源の持続可能性への関心、燃料費・人件費等のコスト上昇、国内外の規制強化などが影響する。
- **食品事業:** 健康・ウェルネス志向<sup>7</sup>、簡便性、プラントベース食品、エシカル消費といった消費者トレンドの変化、原材料費やエネルギー価格高騰に伴うインフレ圧力と価格転嫁の難しさ、サプライチェーンの脆弱性、E コマースを含む小売チャネルの変化。国内市場は人口動態から大きな拡大が見込みにくいという構造的課題もある<sup>14)</sup>。
- **ファインケミカル事業:** EPA/DHA など海洋由来機能性素材市場の成長性、競合状況、薬事規制や食品表示規制、新たな用途開発（医薬品、機能性食品など）の可能性。
- **グローバル市場:** 主要な海外展開先（北米、欧州、アジア<sup>7</sup>）における経済状況、地政学的リスク、貿易政策、為替変動、競争環境の激化。

## B. 戦略の妥当性評価：整合性とリスク

上記の市場環境を踏まえ、Recipe2 の戦略の妥当性と潜在的な有効性を評価する。

- **整合性:** 計画は、サステナビリティ要求の高まり、付加価値製品へのニーズ、海外成長の必要性<sup>14</sup> といった主要な業界トレンドや課題に適切に対応しているか？ニッスイの強み（例：バリューチェーン全体での取り組み<sup>6</sup>、資源アクセス力<sup>4)</sup> を活かす戦略となっているか？
- **実現可能性:** 設定された財務目標は、市場見通しや競争環境を考慮すると現実的か？戦略目標達成のために計画されている投資規模は十分か？
- **リスク要因:** 計画の成功を妨げる可能性のある内外のリスクは何か？（例：戦略実行リスク、M&A 後の統合失敗、原材料価格の急変動、予期せぬ規制変更、競争激化、イノベーションの遅れ）。

ニッスイが海外展開を強化する方針<sup>6</sup> は、飽和しつつある国内市場<sup>14</sup> を補うための論理的な戦略である。しかし、それは同時に、地政学的リスク、為替変動リスク、国ごとに異なる複雑な規制への対応といった、国内事業とは異なる種類のリスクへのエクスポージャーを高めることにもなる。この成長追求とリスク管理のバランスは、Recipe2 における重要な戦略的課題と言える。海外戦略の成功は、これらの国際的なリスクをいかに効果的に管理できるかにかかっており、計画の実行において注視すべき点である。

## VI. 外部からの視点：市場とアナリストの評価

## A. アナリストの評価と見解

ニッスイを担当する証券アナリスト（例：みずほ証券、SMBC 日興証券<sup>21</sup>）からの評価は、計画の客観的な位置づけを知る上で参考になる。

- **レーティングと目標株価:** 金融情報サービス等で入手可能なアナリストのコンセンサスレーティング（買い/中立/売り）や平均目標株価の動向。関連情報として上方修正銘柄として注目されることもある<sup>22</sup>。
- **主要なコメント:** アナリストレポートで共通して指摘されるテーマ。新計画の目標は達成可能と見られているか？強みと弱みは何か？特に懸念される点、あるいは楽観視される点は何か？市場報道によれば、2028年3月期営業利益410億円を目指す計画は評価されている模様である<sup>1</sup>。ニッスイは定期的にアナリスト・機関投資家向け説明会を実施しており<sup>19</sup>、サステナビリティ側面なども含めた対話が行われている<sup>18</sup>。

## B. 市場の反応

Recipe2の発表に対する株式市場の初期反応は、計画が市場期待にどう応えたかを示す指標となる。発表後、株価が大幅に反発したと報じられており<sup>1</sup>、これは計画内容が市場の事前予想を上回ったか、あるいは投資家の懸念材料に対応するものであった可能性を示唆している。このポジティブな反応は、おそらく計画で示された具体的な財務目標（例：410億円の営業利益目標<sup>1</sup>）や、より明確になった戦略的方向性、積極的な投資計画、あるいは既知の課題に対する説得力のある解決策などが好感された結果と考えられる。市場が計画のどの要素を最も評価したのかを特定することは、投資家がニッスイの将来性について何に期待しているかを理解する上で重要である。その後の株価推移や出来高の変化も、投資家の継続的な信頼度を測る上で注目される。

## VII. 総合評価と戦略的展望：ニッスイの将来における Recipe2 の役割

### A. 計画の特徴と潜在的ハンドル

「GOOD FOODS Recipe2」の主要な特徴を総括すると、グローバル展開のさらなる加速、サステナビリティ経営のより深い統合、特定の技術や高付加価値分野への注力、そして企業変革への強い意志などが挙げられる。

一方で、計画実行にあたっては、世界経済の不確実性、競争の激しい食品市場での収益性確保、変動の激しい資源・エネルギーコストの管理、M&Aの成功裡な統合、そしてサステナビリティ目標の達成といった、複数の重要な課題やハンドルが存在する。

## B. 将来展望：「Good Foods 2030」ビジョン達成と長期的価値への貢献

Recipe2 の成功裡な実行は、ニッスイが長期ビジョン「Good Foods 2030」<sup>3</sup>で掲げる「人にも地球にもやさしい食を世界にお届けするリーディングカンパニー」へと大きく前進させる可能性を秘めている。特に、将来目標として示唆される売上高 1兆円・営業利益 500 億円<sup>6</sup>の達成に向けた重要な布石となるだろう。

本計画は、財務パフォーマンスの向上だけでなく、市場における競争ポジションの強化、ブランド価値の向上、そしてサステナビリティ分野でのリーダーシップ確立を通じて、長期的な企業価値向上に貢献することが期待される。

結論として、「GOOD FOODS Recipe2」は、意欲的な目標と具体的な戦略を伴う、信頼性の高い計画であると評価できる。しかし、その達成は、外部環境の変化に柔軟に対応しつつ、計画を着実に実行していく経営陣と従業員の能力にかかっている。長期目標からのバックキャスティング<sup>7</sup>というアプローチは、状況に応じた軌道修正を行いながらも、最終目標を見失わないという意志の表れであり、今後のニッスイの変革を推進する上で重要な要素となるだろう。

## VIII. 参考文献・付属資料

- ニッスイグループ中期経営計画「GOOD FOODS Recipe2」説明会資料（2025 年 4 月 9 日開催）<sup>12</sup>
- ニッスイグループ 統合報告書 2024<sup>23</sup>
- ニッスイ カバレッジアナリスト一覧（例：みずほ証券株式会社、SMBC 日興証券株式会社）<sup>21</sup>

## 引用文献

- ニッスイ(1332)ニッスイグループ中期経営計画「GOOD FOODS Recipe2」について - みんかぶ, 4 月 15, 2025 にアクセス、  
<https://minkabu.jp/stock/1332/news/4192848>
- ニッスイが大幅反発、中期経営計画を前向き評価 - 会社四季報オンライン, 4 月 15, 2025 にアクセス、  
<https://shikiho.toyokeizai.net/news/0/870160>
- 長期ビジョン「Good Foods 2030」と中期経営計画の策定、ブランドシンボルとブランドスローガンの導入、商号の変更 | 株式会社ニッスイのプレスリリース - PR TIMES, 4 月 15, 2025 にアクセス、  
<https://prtentimes.jp/main/html/rd/p/000000033.000019296.html>
- ニッスイグループ 中期経営計画 説明会, 4 月 15, 2025 にアクセス、  
[https://www.nissui.co.jp/news/pdf/150402\\_NISSUI\\_mvip.pdf](https://www.nissui.co.jp/news/pdf/150402_NISSUI_mvip.pdf)
- 日本水産→ニッスイに（23 年 1 月 1 日）ミッション、長期ビジョンと新中計発

表 | FrozenFoodPress, 4 月 15, 2025 にアクセス、

<https://frozenfoodpress.com/2022/04/22/nissui-vision-chukei-shamei/>

6. NISSUI INTEGRATED REPORT 2023, 4 月 15, 2025 にアクセス、<https://finance-frontend-pc-dist.west.edge.storage-yahoo.jp/disclosure/20231101/20231031576250.pdf>
7. 長期ビジョン・中期経営計画 | ビジョン・経営方針 | 企業情報 - ニッスイ, 4 月 15, 2025 にアクセス、[https://www.nissui.co.jp/vision\\_policy/mid-term/index.html](https://www.nissui.co.jp/vision_policy/mid-term/index.html)
8. 日本水産 2023 年「ニッスイ」に社名変更、長期ビジョンと中期経営計画を策定、ブランドシンボルなども刷新, 4 月 15, 2025 にアクセス、<https://www.ssnp.co.jp/frozen/239020/>
9. 長期ビジョン「Good Foods 2030」および中期経営計画「Good Foods Recipe1」について - AWS, 4 月 15, 2025 にアクセス、[https://buffett-code-archives.s3.amazonaws.com/tdnet\\_archives/140120220420524586.pdf](https://buffett-code-archives.s3.amazonaws.com/tdnet_archives/140120220420524586.pdf)
10. 中期経営計画 - IR Searcher, 4 月 15, 2025 にアクセス、<https://ir-searcher.com/tdnet.php?type=7&date=2025-4-8>
11. ニッスイグループ中期経営計画「GOOD FOODS Recipe2」について | ニュースリリース, 4 月 15, 2025 にアクセス、<https://www.nissui.co.jp/news/2025040801.html>
12. 中期経営計画 | IR 情報 - ニッスイ, 4 月 15, 2025 にアクセス、[https://www.nissui.co.jp/ir/ir\\_library/mid-term-plan.html](https://www.nissui.co.jp/ir/ir_library/mid-term-plan.html)
13. 日本水産、18 年営業利益は過去最高 ファインケミカル事業足踏みも水産・食品事業が牽引, 4 月 15, 2025 にアクセス、<https://finance.logmijp/articles/290543>
14. 「中期経営計画 MVP 2017」について - ニッスイ, 4 月 15, 2025 にアクセス、[https://www.nissui.co.jp/news/pdf/150402\\_NISSUI\\_TSE.pdf](https://www.nissui.co.jp/news/pdf/150402_NISSUI_TSE.pdf)
15. ニッスイグループのサステナビリティ, 4 月 15, 2025 にアクセス、<https://nissui.disclosure.site/ja/themes/126>
16. 健康経営 | 社会 | サステナビリティ | ニッスイ, 4 月 15, 2025 にアクセス、<https://nissui.disclosure.site/ja/themes/104>
17. 中期経営計画 - 島津製作所, 4 月 15, 2025 にアクセス、<https://www.shimadzu.co.jp/ir/strategy/middleplan.html>
18. NISSUI INTEGRATED REPORT 2023 - Amazon S3, 4 月 15, 2025 にアクセス、<https://s3.ap-northeast-1.amazonaws.com/disclose.ifis.co.jp/524/140120231031576250.pdf>
19. 株式会社ニッスイ, 4 月 15, 2025 にアクセス、<https://finance-frontend-pc-dist.west.edge.storage-yahoo.jp/disclosure/20240626/20240527508209.pdf>
20. 日本水産 長期ビジョン「Good Foods 2030」を発表、「人にも地球, 4 月 15, 2025 にアクセス、[https://www.excite.co.jp/news/article/Ssnp\\_20220426164535/](https://www.excite.co.jp/news/article/Ssnp_20220426164535/)
21. アナリストカバレッジ | IR 情報 - ニッスイ, 4 月 15, 2025 にアクセス、[https://www.nissui.co.jp/ir/share\\_information/analyst\\_coverage.html](https://www.nissui.co.jp/ir/share_information/analyst_coverage.html)
22. ニッスイが 8 日ぶり反発、28 年 3 月期営業利益 410 億円を目指す中計を評価 - みんかぶ, 4 月 15, 2025 にアクセス、

[https://minkabu.jp/stock/1332/news/4192875?selected\\_platform=pc](https://minkabu.jp/stock/1332/news/4192875?selected_platform=pc)

23. ニッスイグループ 統合報告書 2024(本レポート)- 東証, 4月 15, 2025 にアクセス、<https://www2.jpx.co.jp/disc/13320/140120241030506599.pdf>
24. ニッスイ【1332】の投資家向け説明会 - キタイシホン, 4月 15, 2025 にアクセス、<https://kitaishihon.com/company/1332/ir-meeting>
25. トップメッセージ | サステナビリティ | ニッスイ, 4月 15, 2025 にアクセス、<https://nissui.disclosure.site/ja/themes/83>